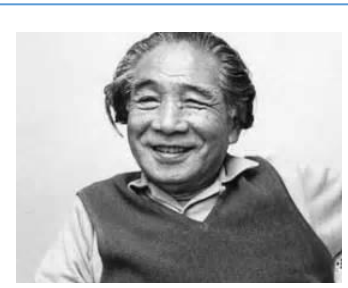


図書館通信

最上校図書委員会
No.13 9月6日



9月図書館企画 作家特集：「横溝正史」展



没後四十一年を迎える作家、横溝正史が生み出した金田一耕助は日本を代表する名探偵のひとりです。怪異と恐怖に満ちた難事件の数々を、一見、冴えない風貌の金田一が合理的な推理で鮮やかに解き明かします。現代のミステリー小説の原点であり、今も魅力が色あせない金田一シリーズを手にとってみませんか。



新庄北高最上校図書館開放カレンダー

9月図書館企画 作家特集：「横溝正史」展

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3 地域貢献日
4	5 代休	⑥	⑦	8	9	10
11	12 代休	⑬	⑭	15	16	17
18	19 敬老の日	⑳	21 後期生徒総会	22 マラソン大会	23 秋分の日	24
25	26	㉗	28 中間試験	29 中間試験	30 中間試験	

※○数字の日が開放日です

横溝正史著 金田一耕助シリーズ

金田一耕助は横溝正史の推理小説に登場する架空の私立探偵。映画化にも多くなっている、横溝正史の推理小説を読破してみませんか！



「悪魔の百唇譜」「夜歩く」「白と黒」「獄門島」「悪魔が来りて笛を吹く」



「犬神家の一族」「三つ首塔」「迷路荘の惨劇」「悪魔の手毬唄」



「本陣殺人事件」「女王蜂」「病院坂の首絞りの家 (上・下)」「悪魔の降誕祭」



「八つ墓村」「びっくり箱殺人事件」「扉の影の女」「スペードの女王」「支那扇の女」

オススメのエッセイ！



『小さいわたし』 益田ミリ著

子ども時代を、子ども目線でえがく。

益田ミリ、4年半ぶりの書き下ろしエッセイ。

幼い頃、胸に抱いた繊細な気持ちを、丁寧に、みずみずしくつづります。「入学式に行きたくない」「線香花火」「キンモクセイ」「サンタさんの家」など、四季を感じるエピソードも収録。かけがえのない一瞬を切り取った、宝物のような春夏秋冬。

『私と街たち（ほぼ自伝）』 吉本ばなな著

街に自分だけの歴史が積み重なり、深い色になっていく。子どもの頃青春を過ごした街、父の死を見送った道。東京の「街」をめぐる自伝的エッセイ集

『寝ても覚めてもアザラシ救助隊』 岡崎雅子著

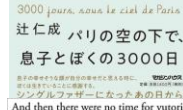
日本唯一のアザラシ保護施設で働く飼育員の奮闘保護エッセイ！アザラシ愛溢れる飼育員が、アザラシの魅力と10年にわたる保護活動を通じて見えてきたアザラシの抱える問題について伝えます。愛くるしい表情と仕草で私たちが癒してくれるアザラシたちをもっと知ろう！

『パリの空の下で、息子とぼくの3000日』 辻仁成著

幸せというものは、欲ばらない時にずっとやってきて寄り添う優しい光のようなものじゃないか。ぼくが離婚したのは息子が10歳になったばかりの年だった。本書は14歳の頃からスタートするが、回想するように、息子が10歳だった当時に遡ることもある。小学生が大学生になるまでの間の父子の心の旅の記録である。ぼくは父であり、母であった。シングルファザーになったあの日から！

『そして誰もゆとらなくなった』 朝井リョウ著

怒涛の500枚書き下ろし！ 頭からっぽで楽しめる本の決定版！ 一生懸命生きていたら生まれてしまったエピソード全20編を収録。楽しいだけの読書をしたいあなたに贈る一冊です。

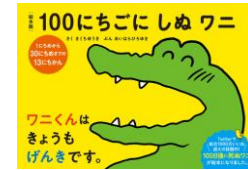


2022 第二回 映画鑑賞会 in 最上校

「100日間生きたワニ」 アニメ

あたりまえ。だから、愛おしい。1匹のワニの、なんでもなくて、かけがえのない毎日の記録をぜひお楽しみください。

桜が満開に咲き誇る3月、約束したお花見の場にワニの姿はなかった。心配した親友のネズミが桜を撮影した写真を仲間たちに送るが、それを受け取ったワニのスマホは画面が割れた状態で道に転がっていた。花見までの100日間、ワニの日常は平凡でありふれたものだった。花見から100日後、桜の木には緑が生き茂り、ワニの仲間たちはワニとの思い出と向き合えず、互いに連絡を取ることも減っていたが？



期 日：9月15日（木）
時 間：午後3時50分～
場 所：PC室

※参加希望者は9月14日（水）まで、各クラスの申込用紙に氏名を記入すること。